

三原市立宮浦中学校第1学年 音楽科学習指導案

題材名：箏の音色に親しもう

指導者：三原市立宮浦中学校 岩崎 文香

- 1 日 時 : 令和2年12月9日(水) 第5校時
- 2 場 所 : 音楽室
- 3 学年・学級 : 第1学年1組(28名)
- 4 題材名 : 箏の音色に親しもう

(1) 題材観

本題材では、学習指導要領【第1学年】内容A表現(2)ウ「(ア) 創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付けること。」(3)「イ 音のつながり方の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解すること。」、B鑑賞(1)「ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと。」を扱う。

本題材では、「さくら さくら」を箏曲に編曲した作品を扱う。「さくら さくら」は七の音から弾き始めるため、初めて箏を演奏するには取り組みやすい楽曲である。また、奏法も弱押しと合わせ爪しかでてこないため、箏演奏の導入には適した題材と言える。

創作活動については、第1学年では2小節の旋律創作を行う。平調子の響きの特徴をつかみながら即興的に旋律を創作していき、より豊かな表現にするために、なぜその配列にしたか、なぜその表現にしたかを言葉でも表現していく。

(2) 生徒観(調査結果からみる課題)

本学級の生徒は、明るい雰囲気をもっており、どの学習においても意欲的に取り組む姿勢が見られる。事前に実施したアンケートでは、「中学校の音楽の授業で1番好きなものは」の問いに約80%の生徒が「器楽」と回答している。また、約77%の生徒が小学校で創作活動を体験している。

しかし、和楽器の経験がある生徒はわずか約27%で、全ての生徒において小学校で箏を扱った授業を経験していないことが分かった。このことから、節づくりなどの創作活動はできるが、これまで箏に触れる機会がなかった生徒が大多数を占めることが分かった。

(3) 指導観(指導改善のポイント)

本題材は、「箏でオリジナル曲をつくろう」というパフォーマンス課題を設定し、その課題解決のために箏の奏法による音色の違いを知覚させたり、奏法を身に付けたりさせる。また、本題材は、3年間の帯学習として取り組み、第1学年で創作した旋律を基に、第2学年で様々な奏法を使った編曲と旋律創作を行い、第3学年で強弱や構成について学習し、それらを踏まえた上で旋律創作を行い、最終的に16小節の作品を仕上げしていく。

指導に当たっては「さくら さくら」の演奏を通して、日本独自の文化や和楽器を演奏するときの立ち振る舞い等について感じ取らせるとともに、基本的な箏の奏法を身に付けられるよう指導していきたい。また、旋律創作においては、例年苦手意識をもつ生徒が多いため、さまざまな奏法を加えることで音楽が変化していくことに気づかせ、表現したいことを音にしていくことの難しさや楽しさを感じ取らせながら、こだわりをもって音楽をつくることの面白さを体験させ、創作に対する難しさや困難さを払拭できるよう指導していきたい。

5 題材の目標と評価規準

題材の目標

○箏の基本的な奏法を身に付け、旋律や音楽全体のまとまりを工夫し、思いや意図をもって音楽をつくることができる。

題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
<p>○箏の音色や奏法に関心を持ち、基礎的な奏法で演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>○音色、リズム、旋律、テクスチャなどの音楽的要素の現れ方や関係性と曲想との関わりに関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>○箏の音色や奏法、平調子による旋律などに関心を持ち、即興的に音を出しながら旋律をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>○箏の音色、平調子による旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じている。</p> <p>○知覚・感受しながら、箏の音色や奏法、平調子による旋律などの特徴を感じ取って音楽表現を工夫し、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>○箏の特徴を捉えた音楽表現をするために必要な、箏の基礎的な奏法、読譜の仕方などの技能を身に付けて演奏している。</p> <p>○箏の奏法、平調子による旋律などの特徴を生かした音楽表現をするために必要な、音の組み合わせ方、記譜の仕方などの技能を身に付けて簡単な旋律をつくっている。</p>	<p>○音色、リズム、旋律、テクスチャなどの音楽的要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、これらの要素と楽器特有の奏法との関わりについて考えたり分析したりしながら鑑賞している。</p>

6 指導と評価の計画

全7時間（本時は5／7）

次	学習内容（時数）	評 価				評 価 規 準	評価方法
		関	考	表	知		
1	<p>課題の設定</p> <p>学習の全体計画を知り、箏で「さくら さくら」が演奏できるようになる（1）</p>			○		<p>ア箏の音色や奏法に関心を持ち、基礎的な奏法で演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>ウ箏の特徴を捉えた音楽表現をするために必要な、箏の基礎的な奏法、読譜の仕方などの技能を身に付けて演奏している。</p>	<p>・行動観察</p> <p>・行動観察、演奏</p>
2	<p>情報の収集</p> <p>「六段の調」を鑑賞し、箏の様々な奏法を知る（1）</p>			○		<p>ア音色、リズム、旋律、テクスチャなどの音楽的要素の現れ方や関係性と曲想との関わりに関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>エ音色、リズム、旋律、テクスチャなどの音楽的要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、</p>	<p>・ワークシート</p> <p>・ワークシート</p>

					これらの要素と楽器特有の奏法との関わりについて考えたり分析したりしながら鑑賞している。	
3	<p>整理・分析</p> <p>どのような作品にしたいか、自分の思いをまとめる (1)</p>		○		<p>イ箏の音色、平調子による旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じている。</p> <p>イ知覚・感受しながら、箏の音色や奏法、平調子による旋律などの特徴を感じ取って音楽表現を工夫し、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>・ワークシート</p> <p>・ワークシート</p>
4	<p>まとめ・創造・表現</p> <p>作品に対するこだわりをもちながら、箏で旋律を創作する (3) 本時 5/7</p>	○		○	<p>ア箏の音色や奏法、平調子による旋律などに関心をもち、即興的に音を出しながら旋律をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>ウ箏の奏法、平調子による旋律などの特徴を生かした音楽表現をするために必要な、音の組み合わせ方、記譜の仕方などの技能を身に付けて簡単な旋律をつくっている。</p>	<p>・行動観察</p> <p>・ワークシート</p>
5	<p>実行 振り返り</p> <p>表現を工夫しながら演奏し、発表する。(1)</p>		○		<p>イ箏の音色、平調子による旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じている。</p>	ワークシート

7 本時の展開

(1) 本時の目標

創作した旋律とその根拠を結び付けながら旋律をつくる

(2) 観点別評価規準

◎箏の音色や奏法、平調子による旋律などに関心をもち、即興的に音を出しながら旋律をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。

◎箏の奏法、平調子による旋律などの特徴を生かした音楽表現をするために必要な、音の組み合わせ方、記譜の仕方などの技能を身に付けて簡単な旋律をつくっている。

評価方法：ワークシート

(3) 準備物

箏、ワークシート、電子黒板

(4) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意事項（・） （努力を要する生徒への指導の手立て◆）	評価規準 ○教科の事項 （評価方法）
導 入	1 既習事項の確認 ○「さくら さくら」を演奏する。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; background-color: #f9cb9c;">課題の設定</div>		
	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> 【本時の目標】 創作した旋律とその根拠を結び付けながら旋律をつくる </div> ○本時の目標を確認する。		
展 開	2 表現の工夫 ○既習した内容を確認する。 ○自分の作品に旋律を加えたり奏法を加えたりしながら作品を創作していく。 3 表現の工夫の深化 ○表現の工夫のヒントや友達のを聴き、特徴をつかみながら参考にし、さらに表現を深めていく。	・創作は、ペアで1面の箏を使って行う。一人は箏を使って即興的に創作し、一人はイメージを整理しながら楽譜を記入していくよう指示する。 ・表現の工夫の例を演奏し、生徒の思考を広げるヒントにする。 ・必要に応じて、創作の仕方や楽譜の書き方等について支援する。 ◆創作が進まない生徒には、個別にヒントを与えて指導する。 ・生徒の作品や創作のヒントを提示しながら、使われていた奏法がどのような効果をもたらしていたか、イメージと音楽的要素の関係はどうだったか補足説明しながら生徒に表現の工夫のヒントを与える。	○箏の音色や奏法、平調子による旋律などに関心を持ち、即興的に音を出しながら旋律をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。 ○箏の奏法、平調子による旋律などの特徴を生かした音楽表現をするために必要な、音の組み合わせ方、記譜の仕方などの技能を身に付けて簡単な旋律をつくっている。
ま と め	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; background-color: #f9cb9c;">まとめ・創造・表現</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; background-color: #f9cb9c; margin-left: 10px;">振り返り</div> 4 本時の振り返り ○本時の学習状況について、振り返る。	・生徒の作品等を通して、本時でどのような表現が深まったかについて振り返らせ、次回への課題意識につなげる。	